

令和2年度

学校関係者評価報告書

令和3年9月

日本航空大学校

北海道 新千歳空港キャンパス

学校関係者評価報告書

1. 学校関係者評価委員会

(1) 開催日時 令和3年9月15日(火) 午後2時00分～午後3時20分

(2) 開催場所 WEB会議

(3) 学校関係者評価委員

南 知秀 氏 (公益財団法人 千歳青少年教育財団 常務理事)

海老名 巖 氏 (公益社団法人 日本航空技術協会 事務局長)

小池 隆 氏 (全日本空輸株式会社 整備センター 業務推進部 マネジャー)

高橋 一壽 氏 (ANA 新千歳空港株式会社 総務部 人事課 マネジャー)

百田 寛 氏 (株式会社 JAL エンジニアリング 総務部組織人財グループ長)

黒田 麻友子 氏 (株式会社 JAL スカイ札幌 企画総務部)

志萱 和孝 氏 (株式会社 JAL グランドサービス札幌 安全業務情報室 課長)

熊谷 仁志 氏 (株式会社 I H I 航空・宇宙・防衛事業領域 武蔵総務部 主査)

欠席者

内村 喜郎 氏 (元社会福祉法人 千歳社会福祉協会 向陽台保育所 理事長)

(4) 学校委員

梅澤 忠弘 (学長)

秋山 博 (副学長)

八反田 武 (教務部長)

梅沢 武史 (学生部長)

水口 剛 (就職指導・学生募集部長)

志田 貢一 (航空工学科 学科長)

岩畦 浩司 (航空整備科 学科長)

山口 文櫻 (空港技術科 学科長)

菅原 久美 (国際航空ビジネス科 学科長)

佐々木 智 (事務部長)

(5) 評価対象期間

令和2年4月1日から令和3年3月31日

(6) 実施方法

学校関係者評価の実施にあたっては、学校から学校関係者評価委員の皆様へ「令和2年度自己評価結果」について説明し、自己評価についての評価、意見を頂いた。

(7) 情報公開

学校関係者評価報告書として取りまとめ、日本航空大学校北海道のホームページで公開する。

自己評価に対する評価

評価は、4～1の点数で記載

4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切

■ 1 教育理念・目標 **評価 4**

意見、提案など

- ・建学の精神やJ-shipという教育コンセプトも定められ、シンプルで分かりやすい理念を掲げられている。
- ・日頃より人材育成に対する思いを十分に感じており、国家試験や資格試験の合格率に職業教育の成果を見ることができる。
- ・校訓や学園全体のコンセプト「J-ship」を明確に掲げて、ホームページ等を通じて学生のみならず、保護者や受験生にも周知されている。さらには、校内ですれ違う学生からの挨拶等、学生の態度を見ると、コンセプトに根差した活動が確実に実践されていることが明らかである。 これらを、今後も継続いただきたい。

■ 2 学校運営 **評価 4**

意見、提案など

- ・各制度の整備状況や組織の状況まで、評価委員会で全てが見える化されていたわけではないことから評価しづらい点もあるものの学生に対する環境整備が行われていることは理解できた。
- ・本年3月に校内、施設内を説明していただき、コロナウイルス感染防止対策については色々工夫され、しっかりと取り組まれていると思う。
- ・国内最古の専門校として約90年にわたって学校を運営されているが、これは御校におい

ても組織や運営が適切に設定され実践されていることの証左であると思う。また、組織は人の集合体であるが、長く勤務している先生がいる一方、若い先生も多く、このことも御校の組織、運営の正当性のなせる結果であると理解している。

- ・デジタル化に早くから取り組んでいることも高く評価する。

■ 3 教育活動

評価 4

意見、提案など

- ・航空機整備業務のあり方も日々変化をしていることから、最新の整備業務の考え方を取り込んだ教育プログラム作りを是非お願いしたい。
- ・人間教育、キャリア教育を継続的に実施することで、企業だけでなく広く社会に貢献できる人材を育成いただきたい。
- ・e-learning を活用した課題の提出や評価など、取り組んでいる過程も含めモニターされているとのことで成果物だけでなくどのような姿勢で課題に臨んでいるか、また何に疑問を感じつまづいているのか等、学生個人単位で把握されているのは大変素晴らしいと感じた。どうしても学生と接する時間が短くなってしまいがちな昨今だと思うが、引き続き課題に取り組んでいる過程へも目を配って頂きたい。
- ・航空整備科の教育課程を拝見する限りにおいては、カリキュラムは体系的に編成されていると考える。また、インターンシップも積極的に実施されており職業教育の実践も図られていると判断する。
- ・コロナ禍の影響もあり、必須科目だけでも時間が足りない状況であると思うが、学生の目標がより具体化するよう、OB・OGを含め、第一線で活躍される社外講師の話聞き、さらに質疑できる時間を今後も設けていただけたらと思う。
- ・高校への周知も含め、新設された航空工学科のますますの発展を希望する。
- ・業界のニーズを踏まえたカリキュラムを作成するには、まず、教職員が業界のニーズやその背景となる社会の動向、最新の情報をしっかりと捉える必要があるのでその観点からも、教職員方への研修を継続いただきたい。
- ・航空整備科では、資格取得のための航空局要件による時間的制約があるが、可能な限り英語教育にも注力してもらいたい。
- ・航空技術協会の会長も学生抜向けに講演を行いたい意向があるので検討していただきたい

質問 オンライン授業の充実は理解できたが、実技、技能の習得について不安を感じるどころがある。実際のところ不足はなかったか。

回答 カリキュラムの内容は変更することなくオンラインでは座学部分を、登校出来る時に実技を集中して行うことで対応できた。技能審査の合格率も上がっており実習授業に対する不足はなかった。

質問 令和元年度は評価項目の「教職員の能力開発のための研修等が行われているか」が3であったが今年度4になっているが何が改善されているのか

回答 令和元年度はコロナの影響を受け始めたばかりで教員を集めて研修することが難しかったが2年度はTeamsなどを利用し新しいアプリケーションを使用したオンライン授業のやり方などスキルアップをすることができた。

質問 令和元年度の報告書の中に「放課後、外部講師による講習を実施した」とあるが2年度も実施したか。

回答 オンラインを活用して実施できている

■ 4 学修成果

評価 4

意見、提案など

- ・コロナ禍による厳しい社会状況においても就職率を維持向上出来ている点は素晴らしいと思う。今後の少子化等に伴い入学者数減少といった厳しい局面もあると思われるが、これからも獲得した学生の確実な育成を期待する。
- ・オンラインと対面教育は今後も併用が続いていくと思われるため、改善しつつ充実したカリキュラムを作成していただきたい。
- ・コロナ禍で航空関連業界の採用状況が厳しい中、昨年度も就職率100%を達成されたことは、一義的には本人の資質によるところではあるが、その背景として、またそこに至った理由として教職員の尽力によるところが非常に大きかったものと思う。今年度も採用状況は改善していないが、学生の入学時の想いを実現させるためにも教職員方には引き続き指導をお願いしたい。
- ・航空整備科の国家試験合格率、他学科も含めた各種資格取得率をみると、作成したカリキュラム、その指導、学生の学習意欲・態度がすべてが有効に機能したものと推定される。昨年度の学修成果から得られた気づきを、今年度の指導にも活かしていただき、今年度も良好な成果を挙げていただきたい。
- ・現下の状況において、挫折（退学）することなく学業を継続するためには、教職員のきめ細かい働きかけが不可欠なので例年にも増して学生を支えていただきたい。

質問 コロナ禍であったが公安委員会の車両運転免許は全員取得できているか。

回答 全員取得できている。

質問 主な退学理由は何か。

回答 主な理由は体調不良と進路変更である。進路変更の退学を減らすため航空業界の展望や就職先企業の方に講演をいただくなど不安を払拭する取り組みを行っている。

質問 コロナ禍で大学卒業後就職できなかった大学生が入学してくることがあるか。

回答 以前から大学入学後就職できないことがわかり中退して本校に入学してくる学生は年に数名いる。

質問 採用試験において面接やオンラインなどいろいろな形態があるがそれらの対応について対策は工夫しているか。

回答 オンライン面接用の指導などは特別行っていない。対面でもオンラインでも本来の学生の良さが出せるように指導している。

■ 5 学生支援

評価 4

意見、提案など

- ・コロナ禍により学生の心身も不安定になる恐れがあることから、確実なサポートを行ってほしい。
- ・昨年度から行われているが、コロナ対策に関して感染予防はもちろん、学生のメンタルケアも引き続き対応いただきたい。
- ・コロナ禍の進路等については、保護者の不安が学生にも伝播するので、保護者への丁寧な説明を引き続きお願いしたい。
- ・不安を残すことなく、すぐに解決できる環境が素晴らしいと思う。

■ 6 教育環境

評価 4

意見、提案など

- ・学内すべての場所でWi-fiを利用可能するという努力は素晴らしい。コロナ対策にあらゆる手段を用いて実行されているということがよく理解できた。
- ・オンライン会議であったので施設見学はできなかったが、前回訪問以降、CTC2や技能審査棟を新築されるなど、継続的に施設面の充実を図られている点は素晴らしいと考える。
- ・コロナ禍によって企業における外部の人間の立入が制限されるなど制約も多いと思うが、企業側にとってもメリットのあるインターンシップとなるような内容とするため、ワクチン接種証明やPCR陰性結果を条件に参加を認めるなど、企業とよく連携して工夫をし、今年度もぜひインターンシップを実現していただきたい。
- ・Wi-Fi等オンライン教育の環境については、相当な投資をされたことと思う。よって、コロナ後にも活用できるよう、今のうちオンラインのメリット、デメリットをよく洗い出し、コロナ後の活用に備えていただきたい。

■ 7 学生の受け入れ募集

評価 4

意見、提案など

- ・インスタグラムやTicTokなどを活用したPRなど学生のニーズや動きに沿っており、時代にあったコンテンツを使用されていると感じた。

- ・航空業界の先は暗い、と世間に思われている中で、御校が制作された「航空業界の大躍進」というリーフレット、またホームページのトップの動画「必要な仕事は、なくなるはない」は、非常に説得力のある内容であり感銘を受けた。日本航空技術協会としてもこのような広報を行って行けたらと思うが、引き続きご尽力いただきたい。
- ・コロナ禍はさらに、高校訪問ができない、オープンキャンパスで学校の雰囲気を感じてもらえない、という直接交流を阻む厳しい環境を生んでいる中で、高校生にとっては、在宅授業の広がりや「おうち時間」の拡大等により、オンラインイベント参加に対する慣れが生まれていると思われるので、オープンキャンパスのオンライン同時開催などの工夫は、むしろ気楽に参加できる環境の提供となり、航空に興味を示す学生さんの裾野を広げる好機になるのではと期待する。
- ・お手伝いできることがあればお知らせいただきたい。

質問 アクセス数はホームページと SNS を比べるとどちらが多いか。

回答 インスタグラムやTikTokの方が興味関心を持つ入口になりやすい。

■ 8 財務

評価 4

意見、提案など

- ・ユニークな寄付金募集は素晴らしいと思った。このような斬新な発想が教育にもどんどん反映されることを期待する。
- ・学校法人会計の財務諸表の見方には不明なところがあり、十分な理解はできていないが、コロナ禍の影響を想定した令和2年度予算では「基本金組入前当年度収支差額」を前年度予算対比約64億円減の約15億円と置いていたところ、決算では前年度並みの約52億円であったことは非常に良い結果であると思う。これらは、教育活動、教育活動外において増収、費用抑制の努力の結果出ると思う。
今年度も昨年以上に厳しい状況が続くと思われるが、安定運営への尽力をお願いしたい。

■ 9 法令等の遵守

評価 4

意見、提案など

- ・法令等遵守についてはとくに問題を認めない。
- ・ネットやSNSの利用を通じ、違法なダウンロードといった軽微なケースも含めて、若者が意図せず（無知含む）触法行為を行う、あるいは巻き込まれる事例が巷間散見されている。すでに実施されているかもしれないが、学生へのコンプライアンス教育の実施もお願いしたい。

■ 10 社会貢献・地域貢献

評価 4

意見、提案など

- ・コロナ禍はボランティア活動にも大きな影響を与えているものと思うがそんな中であっても、できる範囲で活動は継続いただきたい。ボランティア活動は、学校としての社会貢献、地域貢献に資するものであることはもちろんであるが、学生にとっても得られる達成感によって、奉仕、利他の心が醸成され、御校が大切にされている人間教育に大きく資するものとなる。
- ・学生の主体性に驚いた。入社後も様々な社会貢献活動があるため、ぜひ頑張ってもらいたい。

■ 1 1 国際交流

評価 4

意見、提案など

- ・ロンドンへの留学の様子など、厳しい状況下でも努力をしながら遂行された努力を感じとることができた。経験豊かな学生が育つことを期待する。
- ・手段は留学や留学生との係わりだけではないと思うが、多様性を尊重する人材を育成いただきたい。
- ・若いうちの国際交流は、今後ますます重要化、普遍化するであろう多様性の受容という観点で非常に効果が高い活動であると考えてるので無理は厳禁であるが、可能な範囲で継続していただきたい。
- ・オンライン環境を活用した国際交流として、海外の提携校やホストファミリーをつないで意見交換や研究発表を披露することで、多くの学生さんが同時に海外文化に接するといったことも可能ではないか。

質問 留学生はすべて国際航空ビジネス科の学生か。他学科にわたる場合割合はどのぐらいか。

回答 留学生はすべての学科に在籍しておりほぼ同じ割合である。

質問 寮生活において留学生同士を同室にするなどしているか。

回答 特別配慮をしておらず留学生、日本人の区別なく実施している。生活をしてみて本人の申し出により変更することもある。

その他

- ・冒頭学長から「教育のコンセプト」を聞き、人財育成に込める強い思いを感じた。
- ・長引くコロナウイルス感染のなか、学校運営の大変さ、その中での工夫した取り組みにも聞け、企業側としても努力に感謝する。

- ・自己評価につきましては、評価【2】点以下も無く、学校全体が一丸となり取り組んできた成果であると感じた。
- ・会議時間が予定よりかなり長くなったので工夫した方が問いと思う。
資料の配布送付をもう少し早くすれば事前確認もでき、資料にない部分の追加程度で済むのではないか。
- ・評価委員会の名簿を資料に追加してほしい。
- ・評価3の項目について課題と改善策があれば「課題」・「改善策」と分けて明確に記載した方が良いと思う。
- ・ドローンの技術進歩が目覚ましく模型レベルから航空機のレベルにきている。航空と全く関係のない事業者が出てきているが、航空機レベルになれば整備する人材などが重要になってくる。航空の専門学校においてはこの分野における人材育成に力を入れていただき日本の空の安全を守っていただきたい。ライセンス制度も検討されているのでしっかりとした技術を持っている学校が対応していただきたい。
- ・ドローンの業界が発展しているので本校においても設計、開発、プログラミングを航空工学科のカリキュラムに取り入れて教育を行っていく

以 上